

希望の明日へ



*Toward a Brilliant Day
Full of Hope*

•
*Selections from
SGI President Ikeda's
Speeches*



池田名誉会長スピーチ珠玉集

聖教ワイド文庫

聖教ワイド文庫

— 034 —

希望の明日へ^{あす}
[中]

池田名誉会長スピーチ珠玉集

聖教新聞社

希望の明日へ^[中]

池田名誉会長スピーチ珠玉集

発行日 二〇〇八年一月二日

第五刷 二〇一〇年四月十五日

著 者 池田 大作

発行者 松岡 資

発行所 聖教新聞社

〒160-8460 東京都新宿区信濃町一八

電話〇三―三三三三―六一一（大代表）

印刷・製本 大日本印刷株式会社

*

落丁・乱丁本はお取り替えいたします

©2008 D.Ikeda. Printed in Japan

定価はカバーに表示してあります

ISBN978-4-412-01376-6

池田大作（いけだ だいさく）

昭和3年（1928年）、東京生まれ。創価学会名誉会長、創価学会インタナショナル（SGI）会長。創価大学、アメリカ創価大学、創価学園、民主音楽協会、東京富士美術館、東洋哲学研究所、戸田記念国際平和研究所などを創立。世界各国の識者と知性の対話を重ね、平和、文化、教育運動を推進。モスクワ大学、グラスゴー大学、デンバー大学、北京大学など、世界の大学・学術機関からの名誉博士、名誉教授。国連平和賞をはじめ、桂冠詩人、世界民衆詩人の称号、世界桂冠詩人賞、世界の各都市から名誉市民の称号など多数受賞。

著書は『人間革命』（全12巻）、『新・人間革命』（現21巻）、『私の世界交友録』など。対談集も『二十一世紀への対話』（A・トインビー）、『人間革命と人間の条件』（A・マルロー）、『二十世紀の精神の教訓』（M・ゴルバチョフ）、『地球対談 輝く女性の世紀へ』（H・ヘンダーソン）など多数。

目次

第一部 創価の光源

〔第七章〕 信仰の基本

弘教	34
勤行・唱題	23
信・行・学	10

座談会（対話）	50
祈り	57
一念	63
求道心	71
持続	76
善知識・悪知識	83
知恵	90
魔	96
難	103
賞罰	119

功 德 122

実 証 131

成 仏 136

謗 法 147

退 転 151

反 逆 者 157

〔第八章〕各部への指針

壮 年 部 166

婦 人 部 172

男子部（青年部） 180

女 子 部 188

学 生 部 191

未 来 部 196

第二部 人生の指標

〔第一章〕人 生

生 き 方 208

自身に生きる 208

信 念 214

挑 戦 220

努 力 225

参考資料（上・下巻の収録内容）	280
青 年	267
人間性	257
知 恵	254
謙 虚	251
価値的な人生	247
誠 実	245
正 義	241
実 践	238
生活即信心	231

聖教ワイド文庫

— 034 —

希望の明日へ^{あす}
[中]

池田名誉会長スピーチ珠玉集

聖教新聞社

目次

第一部 創価の光源

〔第七章〕 信仰の基本

信・行・学	10
勤行・唱題	23
弘教	34

座談会（対話）	50
---------	----

祈り	57
----	----

一念	63
----	----

求道心	71
-----	----

持続	76
----	----

善知識・悪知識	83
---------	----

知恵	90
----	----

魔	96
---	----

難	103
---	-----

賞罰	119
----	-----

功 徳 122

実 証 131

成 仏 136

謗 法 147

退 転 151

反 逆 者 157

〔第八章〕各部への指針

壮 年 部 166

婦 人 部 172

男子部（青年部） 180

女 子 部 188

学 生 部 191

未 来 部 196

第二部 人生の指標

〔第一章〕人 生

生 き 方 208

自身に生きる 208

信 念 214

挑 戦 220

努 力 225

参考資料（上・下巻の収録内容）	280
-----------------	-----

青年	267
----	-----

人間性	257
-----	-----

知恵	254
----	-----

謙虚	251
----	-----

価値的な人生	247
--------	-----

誠実	245
----	-----

正義	241
----	-----

実践	238
----	-----

生活即信心	231
-------	-----

一、本書は、単行本『希望の明日へ——池田名誉会長スピーチ珠玉集』の中から、第一部の第八章から第二部の第一章の「青年」までを[中]として収録しました。巻末に、参考資料として上・下巻の収録内容を収めました。

一、御書の引用については、『新編 日蓮大聖人御書全集』（創価学会版）により、（御書○○ページ）と表記しました。

一、法華經の引用は、『妙法蓮華經並開結』（創価学会版）により、（法華經○○ページ）と表記しました。

一、仏教用語の読み方は、「仏教哲学大辞典」（第三版）を参考にしました。

一、本文中、各項目の文末に表記した年月日については、スピーチの年月日を記しました。また、雑誌については、書名および掲載年月号を記しました。

第一部

創価の光源

第七章 信仰の基本

信・行・学

創価学会は前へ前へと広宣流布を推進している。◀進まざるは退転◀との戒めを胸に、だれもがそれぞれの立場で活動に励んでいる。大学教授であれ、会社の重役であれ、名もない庶民であれ、仏法の世界における実践はすべての人々において平等である。しかし、◀前進、前進◀と訴えているだけの活動は、当然空回りになる。広宣流布の活動においては、何よりも自行化他にわたる信心の実践が根本である。「自行」と「化他」の実践は、

まさに車の両輪のごとく、互いに不可欠の関係にある。飛行機にしても船にしても、いくら轟音をうならせても、エンジンだけが空回りしては前進しない。極言すれば、題目は真剣にあげるが、広布のため、人々のためとの「化他」の行動がないというのは、完璧なる信心とはいえない。

*

— 昭61・8・2 —

どこまでも信心が基準である。学問ではない。地位でもない。名誉でも財産でもない。ここに世間の次元とはまったく異なる仏法の絶対的な観点がある。たとえ、何がなくとも、正しき信心を貫く人

は、必ず永遠の幸福境涯に至る。反対に信心なき人はむなしく、暗い境涯である。この厳しき理法を深く銘記していきたい。

— 昭62・10・20

*

学会は牧口先生以来、劍豪の修行のごとき厳格な行学の鍛錬を伝統とし、誇りとしてきた。これからも同様である。この鍛えあげられた太く強い骨格にこそ、大難にも負けない学会の強さがあり、不屈の学会魂が練りあげられてきたのである。

— 昭62・10・21

*

強く清らかな信心と、修行のあるところこそ靈山淨土である。四土は、すべて自己の一念のなかにおさまるのであり、正しき信心の一念あるところは皆、常寂光土である。また、「穢土」において、真実の喜樂を得ていく道は他にない。個人の境涯に当てはめていえば、いずこにあつても、御本尊を中心にした生活、またその家庭は、みな常寂光土となる。国土に約していえば、妙法の広宣流布した世界こそ、常寂光土であると拝することができ。信心の一念は、ここまですごく広がり、いっさいを変えていく原理である。

— 昭62・12・4